

(道徳・算数・国語・総合的な学習)

「自分大好き！友だち大好き！大東大好き！」 学び合い、支え合い、共に高め合う子どもを育てる

－自尊感情を基盤とした「協働型授業」を求めて－

大阪市立大東小学校

小林 領子

御庄 紀江

早川めぐみ

高崎あづさ

1. 研究主題設定の理由

本校では、『「よく考える子」「仲良くする子」ねばり強い子』を育成する。』という教育目標のもと、『自尊感情を基盤に学校・保護者・地域が三者一体となってすべての子どもに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をはぐくむ。』ことを学校経営の重点として日々の教育活動に努めている。

自分自身に自信をもち、好きになり、自分が周りから大切にされていることを実感し、互いに認め、支え合う学級集団の中で、「確かな学力」を育んでいきたいと考え、研究主題を「自分大好き！友だち大好き！大東大好き！」～学び合い、支え合い、共に高め合う子どもを育てる～と設定し、平成 27 年度より研究に取り組んできた。

2. 研究の趣旨

1 年目は、子どもとともに創りあげていく「授業」に向けて、45 分の授業の中で児童相互の応答が活発につながっていくような場面の設定と手立てを工夫することを課題として取り組んだ。研究を進めていく中で、ペア対話やグループでの話し合い活動、ディベート的討論等の場面で、互いに意見を伝え合えるようになってきた。また、あえて教科を限定しないことにより、テーマに即して様々な方法や場面で自尊感情を高める研究を進めることが出来た。2 年目は、1 年目の課題（交流の場の設定の仕方や話し合いの際のスキル）をふまえ、児童相互の応答をさらに活発にさせるための有効な手立てを模索しながら、研究を進めてきた。授業の中での話し合いの際、掲示物や座席、発表ボードの使い方を工夫したり、相互指名や指名なし発言等を活用したりすることで、児童相互の応答が活発になってきた。その一方で、学習課題に迫る発問の仕方やノートのとり方、話し合いや発表のスキルアップ、活発な意見交流ができる学級・学年集団のさらなる育成が必要であることもわかった。そこで、3 年間のまとめとなる今年度は、研究主題の原点でもある自尊感情を基盤とした「協働型授業」をめざして研究を進めてきている。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 学びに向かう力の育成＜『主体的な学び』の基盤＞

- 学びに向かう力の原動力を自尊感情と考える。
- 学級・学年集団の中で、児童が活躍できる場をできる限り設け、個々のがんばりを認めていく。
- 異学年交流、運動会・学習発表会などの学校行事を通して、自他を大切に思う児童の自尊感情を育てていく。
- 家庭や地域との連携を大切にし、児童が安心して学校生活が送れるよう努めていく。

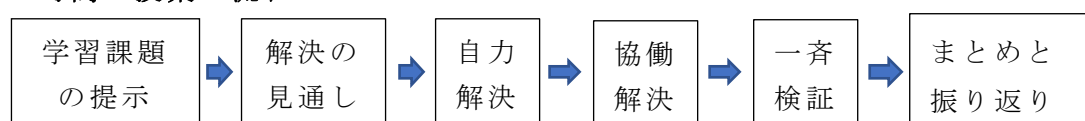
視点② 生きて働く知識・技能の習得＜『深い学び』の素地＞

- 各教科の見方・考え方を働かせ、授業展開を工夫し、思考・判断・表現力につながる基礎・基本的な知識や技能を習得させる。
- 話す・聞く・書く・読む力を系統的に指導していく。
- 図書やＩＣＴ機器を効果的に活用した授業展開を工夫する。

視点③ 思考力・判断力・表現力等の育成＜『対話的な学び』の手立て＞

- 日々の授業の中で、「自力解決」「協働解決」「一斉検証」をできる限り設ける。
- 児童相互の応答を活発にさせる手立てを工夫する。
- 話し合いの仕方や教師の入り込み方を工夫する。

＜１時間の授業の流れ＞



４．研究の成果と今後の課題

（１）研究の成果

- 学級や学年、異学年交流や学校行事など、学校生活のあらゆる場面で個々の活躍の場において成就感をもたせることにより、児童の自尊感情が高まってきた。その結果、自分の思いや考えを積極的に伝えようとする児童が増え、意見交流が活発になった。
- 各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせ、授業を創意工夫することで、児童が課題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを表現したりすることができた。
- 学習活動の中で、ペアやグループで話し合ってから全体で意見交流することにより、発表が苦手な児童が進んで発表することができた。また、相互指名・指名なし発表などを取り入れることで、児童の意欲を高めることができた。
- 児童相互の対話や議論を通して、互いの考え方の共通点や相違点に気づき、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。そして、多様な考えを認め合いながら、協力して問題を解決していくことができてきた。
- 授業の振り返りで、児童自身や指導者がつまずきや疑問・新たな課題に気づき、課題設定や次時の授業へ生かすことで、児童の意欲の持続につながった。

（２）今後の課題

- 学年に応じた話し合いの形態や場を工夫する。
- 活発な意見交流の礎となる、話す・聞く・書く・読む力を育成する。
- 児童の学びが深まるような授業展開を研究していく。
- 互いに認め、支え合う集団づくりを続けていく。